

身につく読書

ロハスビジネス

大和田順子、水津陽子・著



「第3章 これがロハスビジネスだ!」。

ロハス(LOHAS)。「健康と持続可能な社会を志向するライフスタイル」を意味する英語の頭文字をつなげた造語だ。「2005年ごろの流行語ですね。最近は見ませんが…」。

そう思った人にこそ本書を読んでほしいと著者は力説する。

ロハスが生まれた経緯や調査の紹介なども参考になるが、圧巻は

「第3章 これがロハスビジネスだ!」。

ロハス的な発想で成功した具体例が次々に登場し、読者を圧倒する。充電式電池。百貨店の食品宅配。貸し菜園。エコファンド。住宅のエコリフォーム。農業リゾート。すべて舞台は日本だ。分野もまちまちなら、企業規模も大企業からベンチャーまでさまざま。ロハスというトレンドの広がりが実感できる。

続く第4章は地方再生への応用

トレンドの広がり実感

だ。昔ながらの生活や景観、自然が多く残る地方は、ロハス消費者には魅力の宝庫。うまく生かせば人が集まり、まちは活性化する。本章でも税金を用いた公共事業としての活性化策ではなく、地方立地を前面に打ち出した服飾ブランドなど、ビジネスとしての成功例が取り上げられている。

著者も指摘しているが、ただ環境にいい、健康にいい、では成功しない。ロハスビジネスにはデザインや独自性などが不可欠。現実的な注意点も指摘しており、役立つ。

■「コンパクトシティの計画とデザイン」海道清信著 都市のサイズを意図的に縮小するのがコンパクトシティという発想。日欧米の事例を紹介しつつ、日本型コンパクトシティのありかたを提言する。(学芸出版社、3675円)

■「『サービス』の常識」武田哲男著 サービス業であるホテルや飲食店の提供するサービスの質が劣化し、メーカーに負けていると著者。原因はチェーン化やコスト至上主義だ。サービスの本質とは何か、長年の研修経験から説く。(PHPビジネス新書、882円)

日経MJ 2008.2.22